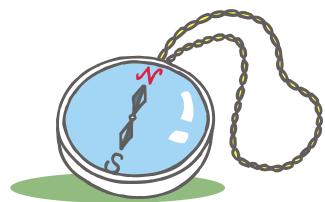


羅針盤



第 2 号

令和3年(2021年)4月12日(月)

◆ 高い志(こころざし)をもつ

今年度の入学式で、新入生の皆さんにお話した内容から、「高い志(こころざし)をもつ」ことについて、全校生徒の皆さんに、この言葉が目指すことの意味について触れておきたいと思います。昨年度も、校長室だより「羅針盤」では、「志(こころざし)」を立てることの意義について、孔子の教えが書かれている中国の古典「論語(ろんご)」より、目標を定めて物事や勉強を始めることが、どれほど大事なことであるかをお話してきました。入学式では、『ピエタ』や『ダビデ像』の彫刻で知られるルネッサンス期のイタリアで活躍した芸術家ミケランジェロの教えである「人間にとて最大の危機(危険)は、高い目標を掲げて失敗することではない。低い目標を掲げて、それを達成してしまうことだ。」という言葉を紹介しました。夢や目標を持たずして、学校生活は充実したものにはならないでしょう。この言葉は、夢や目標を達成することに問題があるのではなく、本来は夢や目標に向かってチャレンジすることに大きな意味があるということを示しています。夢や目標は、発想や行動を変え、チャレンジする気持ちつまりは志(こころざし)を継続させてくれるものであって、夢や目標に向かってチャレンジすることが自分自身を高め、磨いてくれるという意味です。低すぎる目標は、言い換えると予定に過ぎないこととなり、これまでの自分が持っている発想や行動を変化させることはできません。予定をいくらこなしていったとしても、行動は変わらないので成長に繋がることはないということです。高い志(こころざし)をもって、成長した自分を見つけることが何よりも大事なことです。実現できそうにもない目標に対しても、本気でチャレンジし続けることで、今まででは得ることができなかった発想や行動をきっと手に入れることができるはずです。そして、1年後、2年後、3年後と中学校を卒業してからの将来を見据えて、取り組むことが大切です。学習活動だけでなく、学級活動や部活動についても、有意義な学校生活を過ごすためには、高い目標や高い志(こころざし)が必要となってくるはずです。高い志(こころざし)をもち、成長した自分をたくさん見つけ出してくれることを心から願っています。



◆ ミケランジェロ・ブオナローティ

ミケランジェロは美術史上で最も偉大な芸術家の一人であり、彫刻を得意としながらも、他のルネッサンス期の芸術家たちと同様に、絵画、建築、詩など幅広く活躍をし、いずれの分野でも超一流であると称賛されました。様々な分野で優れた芸術作品を残したことから、レオナルド・ダ・ヴィンチと同じく、ルネッサンス期の典型的な「万能の人」と呼ばれています。『ピエタ』や『ダビデ像』(※写真)といった彫刻だけでなく、西洋美術界に非常に大きな影響を与えた2点のフレスコ画、システィーナ礼拝堂の『システィーナ礼拝堂天井画』と祭壇壁画『最後の晩餐』も描いています。また、建築家としてもフィレンツェにあるラウレンツィアーナ図書館や、メディチ家礼拝堂の設計を手掛けていて、マニエリスム様式の代表的建築物と見なされているそうです。

